

171-0014 東京都豊島区池袋4 - 17 - 10 土屋ビル4F

AA

日本ニューズレター No.98

2003年 速報! 第8回全国評議会 2月9,10,11日

## 第1回全体会議

日時: 2003年2月9日(土)

司会: 荒井議長(後期評議員) 木村副議長(常理事議長)  
評議員: 北海道: 滝谷; 近江 東北: 木ノ下(代理); 熊谷  
関東甲信越: 小笠原、荒井、太田、森田  
; 細野、島、小林、花村中部 北陸: 大宮; 松下 関 西: 鎌谷; 小川  
中 四 国: 欠席 九州・沖縄: 酒井; 山崎

常任理事: A類: 田辺

B類: 木村、伊藤、高橋k、高橋y、金田、工藤

J S O 職員: 野崎、小宮山、城間

W S M 評議員: 野村、今井

事務局・書記、オブザーバーなど(韓国メンバー)

オリエンテーション

開 会

B類常任理事信任投票

議長より選管を事務局に依頼。投票の結果、6名全員信任。  
韓国から4名(2日目から5名)の仲間がオブザーバーとして参加してくれました。

## 第2回全体会議

J S O 業務報告: J S O 所長: 野崎

1. 2002年度事業報告

昨年の評議会で決定された事項を踏まえ、昨年度は広報・全体サービスの棚卸しに力を入れた予算編成に基づき執行された。以下 5 までに関しては例年通りの活動。

6. 広報活動

・2月、アメリカ・カナダA類常任理事Drヴァリアント・B類常任理事アレックス・Pを招聘して「国際シンポジウム」を開催。今後もJ S Oのご活用をお願いしたい。

(最終土・日曜日は業務日となっている) 12月は3週目

企画、J S O 担当理事: 高橋k

1. 2002年度活動報告

・J S O スタッフ会議を行っている。職員の日常業務について、休日の取り扱いについて(過労死等の問題)などを話し合っている。

2. 2002年度決算および2003年度予算

・30周年誌編纂委員会に関しては別途会計とする。

3. J S O・NPO法人化

公的機関への提出書類等・定款他

・賛同意見多し、現在まで2年以上の会議を重ねて来ており定款の見直しも重ね、担当理事の範疇で進めるとの全国評議会での決定に基づいて来た。分科会にて意見集約を希望

4. 評議会憲章

・新たに憲章作成委員会を編成し、草案を作成。それに伴い理事会準則も沿って提出したい。(来年度評議会提出)

5. B類常任理事選挙

・任期終了に伴い、2004年全体サービス常任理事2名・東日本圏常任理事1名の選出を行う。J S O内に選挙管理委員会を設置。

6. 30周年誌編纂委員会

・基本方針として、1995年に発刊された20周年誌を尊重し、1995~2005年までの10年間における変遷に焦点を絞る。

7. AA日本30周年記念集会

・九州・沖縄地域で開催することを昨年全国評議会で決定。

8. サービス・フォーラム

・来年度サービス・フォーラム開催地の立候補地域を募る。  
・昨年度第3回サービス・フォーラム(福島県・郡山)は有意義に分かち合いが行われた。今後もサービス・フォーラムは継続して開催したい。

30周年記念集会実行委員会(九州・沖縄地域評議員より報告)準備委員会を経て実行委員会が発足、活動を始める。会場は「福岡国際センター」(同時通訳ブース・宿泊施設等完備)2005年10月開催を予定している(が、会場の都合で4月または9月に変更の可能性あり)

2003年事業計画・予算については分科会において検討する

広報委員会 担当理事: 高橋y

2002年度事業報告

1. 広報誌関連

a. AAニューズレター b. こちらAA 予定通り発行

2. 広報資料関係

a. 2002年2月に行われた「国際シンポジウム報告書」  
b. 第43回アメリカ・カナダ評議会報告書から抜粋した「AAの棚卸し」

c. 2001年のG S Oのスタッフ来日に関連した報告書「ニューヨークG S Oからの贈り物」

d. アメリカにある「ファクトファイル」の単なる翻訳本ではなくて、日本で使えるものをとということで広報委員会として編集した「AA日本広報資料」を出版委員会をお願いして作成した。

3. メンバーシップサ・ヴェイ

パネルを作り、リーフレットは増刷りした。ホームページにも掲載。

4. ネットワーク構築関係

病院施設委員会からの報告。

5. 専門家協力関係

a. 2002年2月に国際シンポジウムを行い、関係者約100名の方の参加。

b. 滋賀県の近江八幡市で第1回広報&amp;病院施設フォーラムを開催。関係者の参加90名。

6. ホームページ関係 分科会での検討へ

7. マスメディア関係 アノニミティーレターの試作を出版局にいただいた 分科会での検討へ

国際シンポジウム・広報&amp;病院施設フォーラム共にか

なり新聞社等が来た。AAがTV取材として取り上げられた。  
2003年度事業計画

1. 今年度作成する「こちらAA」の送付方法の変更を検討したい(送料負担なども含めて)。
2. 次回のメンバーシップサーベイ実施の検討。分科会へ
3. ホームページの問題: 評議会におけるリンクしないという決定の中で昨年の評議会で検討課題となった。今後このリンクの問題をどう考えていったらいいのか? NY GSOの経験を生かし検討する。分科会へ  
個々のホームページの内容については、アノニミティーの問題や著作権の問題のなかで、ガイドライン作成も含め日本として考えていきたい。
4. AAの紹介依頼に載ったマスメディア関係についてはこれまでどおり進めていきたい。
5. イベント関係 広報&病院施設フォーラムは引き続き実施の方向。棚卸しを提出しているので評議会の中で十分に議論して決めていただきたい。予算は計上
6. 広報委員の選任に関して: シンクタンク的な広報委員と特殊なスキルを持った技術系の委員を選定したい。

病院・施設委員会 担当理事: 工藤

2002年度事業報告

- 1) 各関係機関や催しなどへ情報(資料など)の提供について、年間予算の30万円に対して支出は243,170円。
- 2) 第1回日本広報&病設フォーラムを開催。
- 3) メッセージに行っている病院に対してのアンケート「病院アンケート用紙の取り扱いについて」と共にアンケート用紙を全評議員に送付した。
- 4) ネットワーク構築は9月29日の滋賀でのフォーラムの後「委員の皆さんへお尋ねします」との文書を出し、広報と病設に分けることについてアンケートをとった。
- 5) JSG発送分の「専門家NL」について、重複と不必要な箇所の点検と整理をするために「発送済み名簿の取り扱いについてのお願い」と共に各地域委員会議長宛に名簿を送付した。

2003年度活動計画及び予算

- 1) 情報の提供、各地域のイベント、パブリックの情報収集提供。地域間に温度差が感じられるが正確な情報で底上げを図りたい。
- 2) 広報&病設フォーラムについては今年も開催する方向で前向きに考える。
- 3) 病院アンケートについては引き続き活用したい。
- 4) ネットワーク構築は広報と分離し病設委員会を立ち上げたい。
- 5) 各地域内のアルコール患者入院の精神病院の実数把握とメッセージ届けが出来る病院の割合を調査する。
- 6) 予算について  
・関係者への情報提供(広報と共用) 30万円  
・委員会活動費 5万円

(BOX-916) 担当理事: 木村

資料に基づき報告、詳細については、出版委員会・分科会で審議検討していただく。

出版委員会 担当理事: 金田

2002年度事業報告

- ・ビッグブック改訂に伴う他の在庫切れ再出版物の改訂  
昨年の評議会で出版担当評議員に提示して了解を得た上で再版してゆくという約束をしたが、担当理事の私と出版担当評議員とのチームワークが上手くいかず、了解を得ることなく再版を進めた経緯について、理事としての責任を問われるも

のと考えている。なぜこういうことが起きたのかということを検証し、出版局の担当者も一生懸命やってくれていることを踏まえ、チームワークを大切にすることを課題としたい。この一年間これを目標として出版のシステム作りということを考えていきたい。BB改訂に伴い改訂部分を反映し再版してきた出版物は以下の通り。

「AAとは何か?」「関係機関の皆様へ」「こちらAA」「ベストオブビル」「伝統のチェックリスト」「アノニミティをご存知ですか?」「回復への道パート1」「ミーティングハンドブック」

・承認された改訂出版物に対する各種意見の取り扱い

昨年の評議会で常任理事会に取り扱いを委ねるということを受けていたものだが、出版局で、受けてきたものを反映させるかしないかを慎重に検討してきた。

・常任理事会出版委員会の整備充実

常任理事会出版委員会の性格、出版局の性格、役割をしっかりと位置づけなければいけないと考えている。これからの出版体制を確固たる物に進めてゆく。

2003年度事業計画

1. BB改訂に伴う他の在庫切れ承認出版物改訂

これからも評議会出版委員会の承認を得て出版することに変わらない。

2. 常任理事会出版委員会の整備充実

これからの出版事業というものを見つめてゆく。

前回の評議会でアメリカ・カナダの評議会承認出版物は全て翻訳出版すると決議されているが、それに伴う計画や見通しなどが出版委員会が真剣に取り組んでいかなければならないテーマの一つであると考えている。

日本のAAで印刷物(文章、資料)などの保管やその体制について出版委員会として検討してみたい。

出版局 担当: 城間

1. 2002年出版計画の実行経過。(新規出版)

イ、自立: 金銭と霊的なものが交わるころ 5月15日

初版約500部

ロ、ようこそAAへ 5月31日初版500部4回印刷し3,800部

発行後印刷中止。改訂版については理事より報告。

ハ、ある女性のアルコールへの手紙 8月20日初版1,000部

今年度の再版計画にも入れる。

ニ、AA日本広報資料 9月20日初版3,000部

ホ、AAサービスマニュアル 1月1日('03)初版1,000部

昨年評議会で発行するといった、ビルの言葉は昨年中に発行できなかった。ビッグブックの作業がはかどらなかったことが原因。今年度の計画に入れてある。

2. 再版分については資料の表を参照のこと。

委ねている責任や権限がどういふものか不明確だったことで様々の問題が生じたと考えている。責任と権限を明確にしてゆくことが重要である。

3. 2003年度出版事業の方針。資料参照

4. 来年度出版計画および予算 明日の分科会で検討する。

WSM評議委員の報告 WSM後期評議員 野村

2002年度決算と2003年度予算の説明

2002年国際協力献金の使途などについての説明

財務委員会 担当理事: 伊藤

事業報告及び決算報告と事業計画及び予算案

2002年度決算報告

・2002年度決算報告は赤字です。〔¥2,027,869の赤字〕

・昨年の評議会で2002年度の執行計画に対し収入が不足することが予測されたが〔案〕ということもあり各収入科目に上乘せ加算しての増額、献金増に向け努力することで承認さ

れた。これを評議員の皆さんに各地域で説明して頂いたと思うが、残念ながら収入増とならなかったのが現状である。

- ・ 昨年の評議会で収入状況を見ながら予算を消化していこうとの事だったが無理があった。理由としては赤字になることが判明した時点での進行中の印刷物発行等をやめることは不可能であった。〔反省点〕
- ・ 過去からの累積赤字額が¥2,886,945となったがこれは現在設定されている運営準備基金238万円が底をつき、尚かつ¥506,945不足しており、不足額を再版引当金からの借り入れで充てていることを示している。
- ・ 収入額は昨年よりわずかに増額となっているがピックアップハードカバーの発行に伴う収入増の為と思われる。
- ・ 献金額は過去4年間々々減ってきている。
- 各科目の収入・支出の説明
- ・ 各常任理事会の各委員会支出説明
- 再版引当金・運営準備金の見直し〔案〕について
- ・ 今回の評議会でこの案の採択がされると思うが決議結果によって2003年度の予算〔案〕に変更が出てくる。

2003年度予算〔案〕について

- ・ 収入より支出増予算のため常任理事会で2回執行計画削減し当初予算案より大幅削減された予算である。 以上

後記とお詫び（この報告は速報であることをご理解ください）それぞれの報告、事業計画の後に質疑応答が行なわれましたが紙面の都合で掲載ができませんでした。お詫びいたします。それぞれの地域評議員から詳細が報告されることと思います。韓国の仲間を迎え静かに開始された評議会で、分科会の後の全体会議では評議員からの活発な意見や提案の発言が相次ぎました。限られた時間という制約の中で、苦しんでいる人たちに何ができるかという一点に献金問題やメッセージに関して意見の集約が行なわれていきました。そして、この評議会の運営がたくさんのボランティアメンバーによって支えられていることをお伝えいたします。みなさまの献身的なサービスに心からの感謝を贈ります。 N.

## 第1回北海道地域 サービスフォーラムを終えて

羊の年明け早々、厳冬の1月18,19日(土、日)の二日間に渡る北海道地域主催のサービスフォーラムを、札幌市東区のJR研修センターを利用して開催いたしました。

このサービスフォーラムに参加して頂いた仲間と、プログラムの運営にご協力して頂いた仲間へ実行委員会より厚く御礼申し上げます。

北海道地域の中だけのサービスフォーラムは初めての経験でしたが、第2回の全国サービスフォーラムを北海道地域(札幌市)で行った経験を生かし、実行することができました。プログラムを進める上でも経験をした仲間がいたことが幸いし、無事に終える事が出来たのと思います。

また、昨年6月に実行委員の呼び掛けを行い8月に実行委員会を立ち上げ、その後7回に渡る実行委員会の中でプログラム作成等詳細に決めて来ましたが、いざ実際に終えてみるとやはり次回に向けての反省事項もありますが、特に大きな問題も無く無事に終える事が出来たのもすべて集まってくれた仲間達の力だと感謝しています。

さて今回のサービスフォーラムのテーマを「グループとサービス」・・・(経験の述べ伝え)とし二つの分科会(輪番制、メッセージ)を設け、その分科会前後を全体会議として大勢の仲間と分かち合いをしました。その中の分科会で十分な

ディスカッションが仲間の中で成されたのかなという疑問があり、終了時のアンケートの答えがそれを証明していました。それは参加した人数と時間の制約がそうさせたのかも知れません。又、テーマを広く大きく捉え過ぎたのか、話の内容が絞り込めなかったものと思われる所もありました。他にもありますが、このような反省事項がある中で、参加した仲間から頂いた終了時のアンケートの答えを幾つか掲載します。

- ・ サービスフォーラムはどんなメンバーが参加出来るのか、又、どういう事柄を話し合っているのか、何をやって行くのか、何も分からないで参加しましたが、少しずつ大変さとかも含めて積極的に自分も参加していかなければ・・・と思いい、AAメンバーと名乗っているならサービスにも関わっていくのも責任だという事が良く分かりました。
- ・ 地域のサービス活動については、まだまだ十分とは到底言えないと思いますが、これから行なう事が多々あるという点において、むしろやりがいがあると考えれば良いと思います。十年前よりもサービスに関わる仲間が多く熱意も感じられました。
- ・ 全体会議ではもう少しサービスの詳しい内容を知りたかったです。
- ・ 経験の豊富な能力の高い人達とサービスの場に顔は出すが(嫌々であっても・・・)多く発言する仲間としない仲間達との間にギャップが有り過ぎて、サービス=難しいという雰囲気やめぐい取ることができません。
- ・ フォーラムに望む事は、継続して貰いたいことと、難しい事をやらないでAAの中の基本的な事を分かち合う場として使って欲しいことです。
- ・ 地域サービス活動については正直に言って良く分からないし見えてこない。地域、地区、グループがもう少し連携を取れると良いと感じています。ミーティング会場で所属グループに関係なく誰でも気軽に情報などが手に取って見ると良いのでは。少しは理解しやすくなるか、と思います。
- 他にも大勢の仲間のアンケートに対する答え(意見)がありました。決して今回のフォーラムを悪い方向で捉えた仲間が幸いにもありませんでした。これらの意見を真摯に受け止め、反省会での意見を反映させて次回のサービスフォーラムに生かして行くよう謙虚な気持ちで進んで参りたいと思います。

最後にAAにつながってグループの中での会場係り(お湯沸し、スリッパ清掃等含む)から始まったサービスが、代議員、地区サービスから地域広報活動、地域集会副議長へとサービスの形が変わった中で、何れにしても結果として飲まないで居る事を与えられてきたと思う。当然責任あるものも益々広く深くなるように与えられていますが、まるでその与えられているものが生き物のように、そして常に動いているように感じています。それは決して辛いとか苦しいとか逃げ出したいという気持ちではなく、仲間の気持ちが少しでも理解できたりした時、サービスも楽しいものと思えます。こういう経験も分かち合いたいと思います。

そしてゲロを吐きながらも飲んだ暮れていた地獄のような世界、どうしようもなくなり死にかけていた世界から、AAに繋がり再び生命を与えられ生きて行く喜びの現実の経験を、12番目のステップを使って全てのアルコール中毒者がAAで見いだすかたが出来るように活動を続けて行きたいと思いますが、何故サービスが必要なのかを第2回サービスフォーラムに向けて分かち合って行き、何かを掴み合うことができればと考えています。

第1回北海道地域サービスフォーラム実行委員長  
フクシ

### 目的の単一性

「目的の単一性」はアルコール依存症の効果的治療にとって必須のことである。このような誇張された焦点づけの理由は、否認に打ち勝つためである。アルコール依存症に関連した否認は巧妙で、不可解で、強力なものであり、患者、援助者、地域に影響を与える。アルコール依存症を容赦なく前景に押し出しておかなければ、他の問題が人の注意を奪ってしまうのである。

しかしながら、精神保健従事者にとってAAの伝統5「各グループの本来の目的はただ一つ、いま苦しんでいるアルコール依存症者にメッセージを運ぶことである。」は大変に難物である。なぜならば、精神保健従事者はアルコール依存症・アノニマスの成功と地理的な利便性に敬意を表するのを惜しみはしないが、それを承知の上でメンバーシップをさらに広げ、他の薬物依存症者も含めてほしいと願っているのである。彼らは純粋なアルコール乱用者が減少し、多剤乱用者が増えていることにも気づいている。さらに、精神保健従事者は目的の単一性を、時代遅れで排他的であるとみなすこともある。彼らはAAの伝統は初期のAAの遺物であり、犯罪歴のある、若者・貧困者・マイノリティーの人々は排除されていると嘆息している。その上、専門的な薬物治療センターやナルコティクス・アノニマス(NA)グループが近隣にない精神保健従事者は、12ステップの働き方の伝統があるのに、なぜAAはもっと踏み込んで規則を破らないのか、理解に苦しんでいる。

精神保健従事者としても研究者としても、私にはこのような懸念を打ち消す2つの論拠があると思う。第一にAAの伝統3「AAのメンバーになるために必要なことはただ一つ、飲酒をやめたいという願いだけである。」はAAが排他的ではないことを示している。毎年AAは、何千人ものマイノリ

ティー、何千人もの貧困者、何千人もの薬物問題のあるアルコール依存症者、何万人ものマイノリティーをメンバーに迎え入れている。飲酒をやめたいという願いのあるものは誰も排除されない。

「目的の単一性」は否認を克服するのに必要だという第2の論拠はさらに説得的である。できることなら、誰もアルコール依存症者については語りたがらないのだ。それに対し、薬物依存は新聞の見出しを飾り、研究費が付き、臨床家の関心を引く。レキシントンのケンタッキー連邦薬物依存症治療センターでの2年間の勤務の後、私は助教教授であったが、世界中からヘロイン依存症の講義のための招待を受けた。私は教授として25年間にわたるアルコール依存症とその深刻さについての研究をしてきたが、1990年代後半、ついに生まれ故郷で行われるアルコール医学会の総会で講演を依頼された。私に与えられたテーマは「アルコールはなぜ健康に良いか」であった。つまりは、アルコール依存症の適切な治療にとって最も大きな障害は否認なのである。

私は最初の精神科医としての経歴を、大変熱心な地域保健センターにおいて始めた。その地域の最も深刻な問題はアルコール乱用であるのは衆目の一致するところであった。最初の10年間の働きの後にも、そのセンターはまだその地域の第2、第3、第4番目の問題にかかづらわっていた。アルコールの治療に専念する社会資源は皆無であった。

その後、私は他の地域精神保健センターに移動し、住民の声にこたえて、アルコール治療センターを開設した。その医療機関の副院長の職を依頼された時、私はその精神保健センターで雇われた最後の精神科医であった。意味深長なのは、私にはアルコール依存症についての治療経験がなかったのに、その職を誰も望まなかったことである。

言い換えるならば、アルコール依存症の治療におけるAAの経験的に立証された成功は、AAグループが世界中でアルコール依存症に、アルコール依存症だけに焦点を当てている唯一の場所であることがその一因である。他に否認に打ち勝つ方法はない。



### 沖縄便り

日本最南端！沖縄地区のご紹介



メンバーの皆様いかがお過ごしですか？ここ沖縄では2月の中旬に桜の見頃も過ぎ、季節の変わり目を感じられる陽気となっております。現在こちらでは七つのグループ(北から順に名護G・コザG・北谷G・はごろもG・首里G・小禄G・糸満G)が地区へ参加し、それぞれが週一〜三回のミーティングを行っており、月二回の病院メッセージを加えれば、ほぼ毎日仲間と会い続ける事が出来る様になりました。実際には私も含めて其の機会をフルに活用するメンバーは少ないのですが...

今年も六月の中旬頃には毎年の恒例となっているオープン・スピーカーズ・ミーティングを開催する予定となっており、それに向け現在、実行委員会を立ち上げ取り組んでいるところです。詳細は未定ですが、決まれば次第BOX916等でお知らせしたいと思います。余談ですが、六月はシーズンオフで航空券もお安くなるそうですので、全国の仲間のメッセージをお待ちしております。なにぶんにも海を挟み本土と遠く離れたという地理的条件もあり、他府県のメンバーとの交流の機会が少なく、メンバーはメッセージを通しての刺激を求めております。あなたも日本最南端の地で行われるオープンに参加して、仲間との分かち合いのひと時を過ごしませんか？

地区の紹介をさせていただくつもりが、オープン・スピーカーズ・ミーティングの参加呼びかけの様になつてしまい恐縮です。もちろんオープン云々とは関係なく沖縄へお越しの際には気軽に最寄りのミーティング場まで足を運び下さい。なお夜のミーティングは一部の例外をのぞき八時からの開始となっております。会場・時間帯等詳しい事につきましては九州セントラルオフィスの方へおたずね下さい。では、メンバーの皆様、「穏やかな二十四時間」を願いつつ...

沖縄地区委員

### AA日本ニューズレターNo. 98

編集・発行：AA日本ゼネラルサービスオフィス(JSO) 〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 4F